



発表会の振り付けが始まりました。

第42回発表会 10月12日(土) 神戸文化大ホール 出演 藤田佳代舞踊研究所研究生 拍踏衆

ゴールデンウイーク明けから発表会の振り付けが始まりました。

年明けから発表会の振り付けが始まるまでの5ヶ月ほどは、あまり踊りの練習をすることもなく、ふつうのレッスンは主になってくるので、もちろんがんばってはくれているのですが、ちょっと楽しくないかも、と子どもたちが感じていることも確か。さあ、振り付けするよーと言ったとたん、子どもたちの目の輝きが変わります。わかるよ、みんなそうだったよ。でもね。基本のお稽古こそ大事なのだよ・・・そんな言葉は聞いてもらえません。おおはりきりで、発表会の練習を頑張っています。

プログラムは「届ける—東北の地震と津波と原発事故で亡くなった数限りない命たちへ」「ちょっとうれしいことばみつけたよ」

「メリーさんと隠れ家」を上演します。

ちょっとうれしいことばみつけたよ

多謝す 溪流石点々。石を踏んで香芹を撮る 多謝す、水上の石。われをして裙を沾らさざらしむるを

(春風馬堤曲より与謝蕪村)

春のほだし あちきなく 春の命の 惜しきかな 花ぞこの世の ほだしなりける

(和泉式部)

田毎の月 帰る雁 田毎の月の 曇る夜に

(与謝蕪村)

麦秋 麦秋や 鳶天空を 余すなく

(安斉久英)

天津水 雨ふらず 日の重なれば(略) 緑子の乳乞ふるがごとく 天つ水 仰ぎてぞ待つ

(万葉集より大伴家持)

水霊 旅人は待てよ このかすかな泉に 舌を濡らす前に 考えよ人生の旅人 汝もまた岩間からしみ出た

水霊にすぎない この考える水も永劫には流れない (旅人かへらずより 西脇順三郎)

瑠璃の水 瑠璃の水 にしきの林いろいろに 心うきたつ秋の山川

(藤原定家)

たのしみは たのしみは 朝おきいでて昨日までなかりし花の咲けるを見る時

たのしみは 常に見なれむ鳥の来て軒遠からぬ樹に鳴きし時

(独楽吟より橋平定)

垂水 雪つもりつららゐて 谷の小川も音もせず 峰の嵐ふきこほり 滝の白糸 垂水となりぬ

(平家物語より)

花信風 風にのり 一足早く 花信あり

(千秀)

花の雨 あひさしの 傘(からかさ) ゆかし 花の雨

(淀水)

振り付けの前に子どもたちに、言われて嬉しい言葉はなに?と聞いてみたところ、まず最初にあがるのが「ありがとう」。

それから「大好き」。かわいいな、と思ったのは「踊るの上手だね。」うんうん。この言葉は何歳になっても言われたらうれしいね。

メリーさんと隠れ家

今から90年ともう少し昔。アメリカと日本の国の友情の記念として、アメリカからたくさんのお人形が贈られました。

お人形たちは、パスポート、乗客としての扱いを受けた一等の乗船切符、着替え、「このお人形を可愛がってあげてくださいね」と書かれた手紙を持って、誇らかに日本の港に到着しました。

お人形は、日本各地の小学校(その頃は尋常小学校、のち国民学校)や幼稚園に贈られました。メリーさんは、小学校に贈られたそのうちの一体でした。メリーさんは寝かせると目を閉じ、起こせば「ママー」と声を上げるお人形でした。

たくさんのお人形がメリーさんを大切にしました。メリーさんは幸せでした。

そんな幸せな日々が断ち切られる時がやってきました。二つの国の間で戦争が始まったのです。戦争が進むにつれて、メリーさんは「敵国の人形」と呼ばれるようになりました。

メリーさんだけではありませんでした。国と国との友情を深めるためにやって来たたくさんのお人形たちが、叩かれたり、竹の棒で突かれたり、焼却されたりして処分されていったのです。

幸いメリーさんは学校の先生の手によって、物置に隠されました。

国民学校5年生のあきこちゃんとお友だちたちは、小さな学年の頃から、メリーさんに夢中で特別に可愛がっていました。

メリーさんが、物置に隠されてしまったことを知って、とても悲しみましたが、ある時あきこちゃんはいいいことを思い付きました。物語倶楽部を作って、物置の前でメリーさんにお話を聞かせてあげるのです。あきこちゃんが考えた物語は『勇敢なメリーさんと綿毛の旅』。たんぼぼ母さんをお願いされたメリーさんが、綿毛たちを探して、たんぼぼ母さんからのことばを伝えるお話です。お話が何話目かに差し掛かった頃、悲劇はおきました。

メリーさんは物置から引き出されて棒にくくりつけられました。竹の棒を持った人々がメリーさんを囲みます。たくさんの憎しみの目。メリーさんが初めて見るものでした。恐怖のあまりメリーさんは叫びました。

「ママー！」「ママー！」

「やめて！」

あきこちゃんでした。憎しみの目があきこちゃんにも注がれます。あきこちゃんはメリーさんのところに行こうとしますが、足がすぐんで動きません。その時、黒い影が走りました。大きなカラスでした。カラスは竹の棒を持った人々を払ってメリーさんのひもを解いてくれました。

「ついておいで。」

カラスはメリーさんを抱えたまま、飛び立ちました。あきこちゃんはカラスを見失わないように必死で走りました。

カラスについてどれくらい走ったでしょう。着いた所は石垣に囲まれた、ケヤキとイチヨウの生い茂る大きなお屋敷でした。カラスはお屋敷の石垣をぐるりとまわり、小さな穴から中に入りました。あきこちゃんもなんとか潜り抜けました。

「ここには誰も住んでいないから」

カラスはそっと扉を押して家の中に入りました。階段を登って小さな部屋に入ると、そこには小さな椅子が一つ置かれてありました。

「メリーさん、ここなら誰にも見つからないかな。」

あきこちゃんももういっぱいでした。メリーさんを抱いたまま泣き出してしまいました。

ことん、音がしてハッと振り向くと、仲間たちが立っていました。

「メリーさん・・・」

みんな泣き出して、そして、順番にメリーさんを抱っこしました。そんな女の子たちにカラスは言いました。

「みんな今日は帰りなさい。わたしがメリーさんと一緒にいるから大丈夫。でも、時々顔をみせにきて。そして、いつも話してあげていたお話をメリーさんにしてあげて。」

終わりました。ありがとうございました！

創作実験劇場

3月17日（日）17：00開演 兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール

出演 石井柊結 松浦歩里 高橋陽奈 福本莉菜 中野茉歩 坂本のより 村上美羽 菊原麻理奈 渡邊菜子 菊原麻衣花
稲益夢子 田中文菜 平岡愛理 梁河茜 板垣祐三子 石井麻子 向井華奈子 かじのり子 菊本千永 金沢景子 寺井美津子
寺井美津子作舞「海の声」 菊本千永作舞「月の森にねむる」 かじのり子作舞「追う—遠ざかる遠景」 金沢景子作舞「鬼影」
向井華奈子作舞「華の終い」 平岡愛理・田中文菜作舞「nowhere」 藤田佳代作舞「満ちる—10拍子のうた」

例年、この時期に行われる藤田佳代舞踊研究所モダンダンス公演「創作実験劇場」。主要メンバーがそれぞれの感性で、オリジナル作品を発表した。

寺井美津子がヴィヴァルディの音楽に乗せて作舞、ジュニアのダンサーたちが踊った『海の声』で幕開け。続いて菊本千永自作自演ソロの『月の森にねむる』。これがなかなか興味深い作品だった。銀髪のショートヘアウィッグの菊本は美しいフィギュアの様。横寝から始まる優しい雰囲気の中に、ちょっと妖しい感じ、アンニュイな感じも垣間見せて。そんな妖しさや気息さなど普通の社会では決してプラスばかりとはされない微妙なものを。もっと出したら、さらに観客を巻き込む作品になりそうな気がした。つぎの、かじのり子作舞『追う・遠ざかる遠景』は、群舞の工夫が感じられる作品。そして、金沢景子自作自演ソロの『鬼影』は、尺八の稲澤笑亀とのコラボレーション。鬼女のすごみを表現した。また、向井華奈子が、沢井比河流、沢井忠夫の音楽に乗せてそれぞれの花を表現。ここに“桜”がないのは、凜としたものを表現するための美意識なのかなと感じながら観た。『nowhere』は、平岡愛理、田中文菜、梁河茜、稲益夢子、菊原麻衣花と5人の若手が、挟間美帆の曲に乗せて作舞&出演。ツナギ姿での飾らないパワーを感じた。そして最後は、藤田佳代作舞の群舞『満ちる・10拍子のうた』。なんと最初から最後まで、まったく音楽を使わない作品。ダンサーが手を叩く「パン！」という音だけが響く。呼吸だけで息を合わせて動くダンサーたち。何かを掴もうと叩く手、捕まえたかと思うと、飛んで言うてしまう、それを追う視線。でも、なんどでも諦めず…。21人のダンサーが前向きな気持ちを一つにして、息を合わせて「パン！」と叩く様は圧巻だった。

第12回こうべトライアルステージ 兵庫県立芸術文化センター中ホール 「風に吹かれて」 作舞 かじのり子 出演 中野茉歩
第32回こうべ全国洋舞コンクール 神戸文化中ホール 「風に吹かれて」 作舞 かじのり子 出演 中野茉歩